

●景観形成の目標像

周辺の田園風景に配慮した河川空間を創出する。

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

既設構造物に近い構造とすることで、景観への影響を極力小さくする。

②細部設計、材料等の選定の考え方

周辺との景観の変化を最小限となるよう護岸ブロックについては、既設護岸とのなじみに配慮した擬石タイプを採用する。

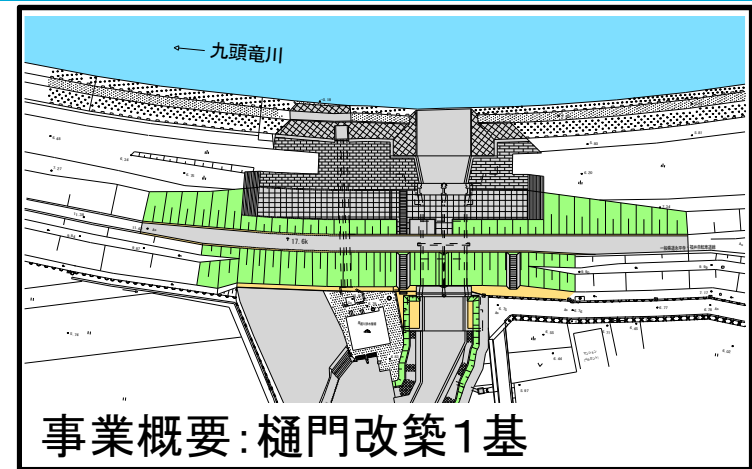
③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

連続した河川景観の保全を図るため、既存の河川施設への影響を最小限とする改築計画により、既設擬石ブロックを活用したコスト縮減を図る。

(事業前)



(事業後)



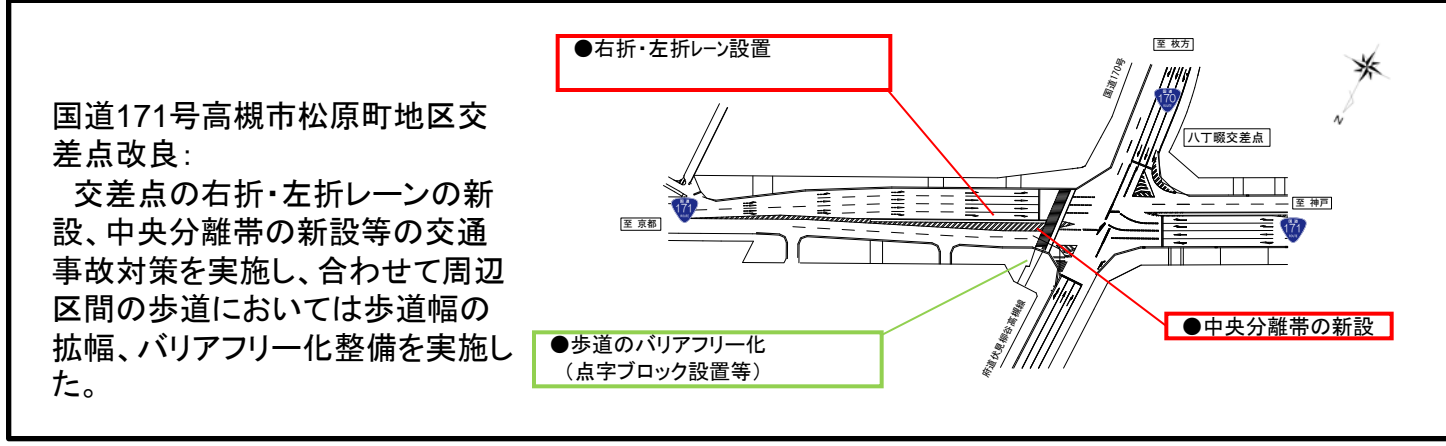
●景観形成の目標像
防護柵色調の統一を図る区間となる景観的基調のゾーン選定により、中心市街地ゾーンとして整備する。

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
交通安全上、横断防止柵として必要な箇所に設置する。

②細部設計、材料等の選定の考え方
景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、材質は一般的な素材である鋼製のものを、色はグレーベージュを選定する。

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方
景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、シンプルな形状(標準品)を採用することでコスト縮減を図る。
(事業後)

(事業前)



●景観形成の目標像

防護柵色調の統一を図る区間となる景観的基調のゾーン選定により、中心市街地ゾーンとして整備する。

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
交通安全上、横断防止柵として必要な箇所に設置する。

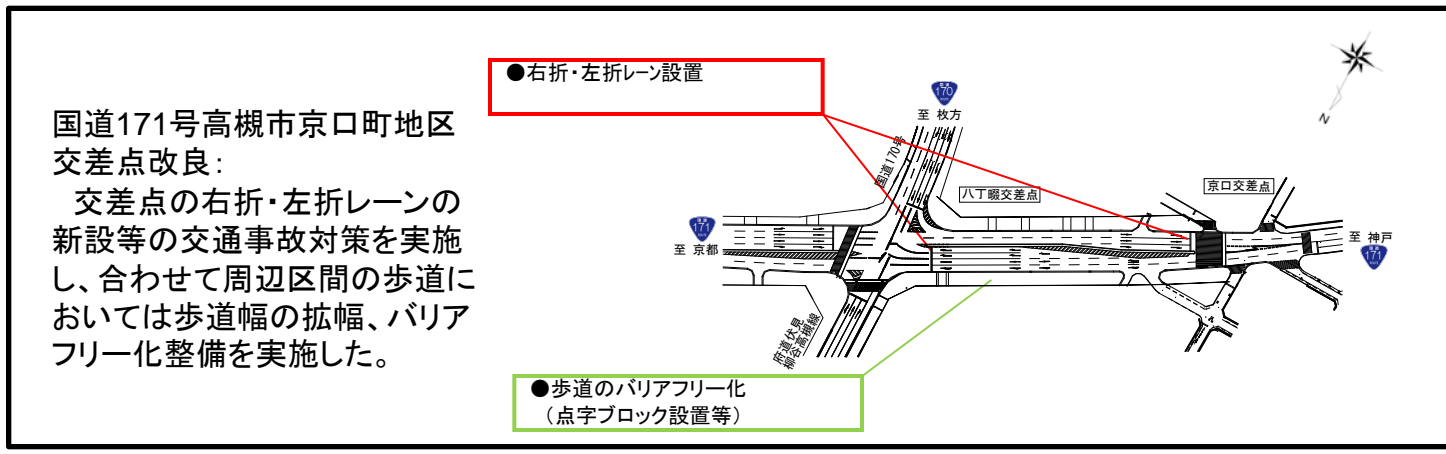
②細部設計、材料等の選定の考え方

景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、材質は一般的な素材である鋼製のものを、色はグレーベージュを選定する。

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、シンプルな形状(標準品)を採用することでコスト縮減を図る。

(事業前)



国道171号高槻市京口町地区
交差点改良：
交差点の右折・左折レーンの
新設等の交通事故対策を実施し、合わせて周辺区間の歩道においては歩道幅の拡幅、バリアフリー化整備を実施した。



(事業後)

● 景観形成の目標像

八木川などの河川沿いに広がる水田風景や背景となる山並みなどの良好な自然景観と融和した道路

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

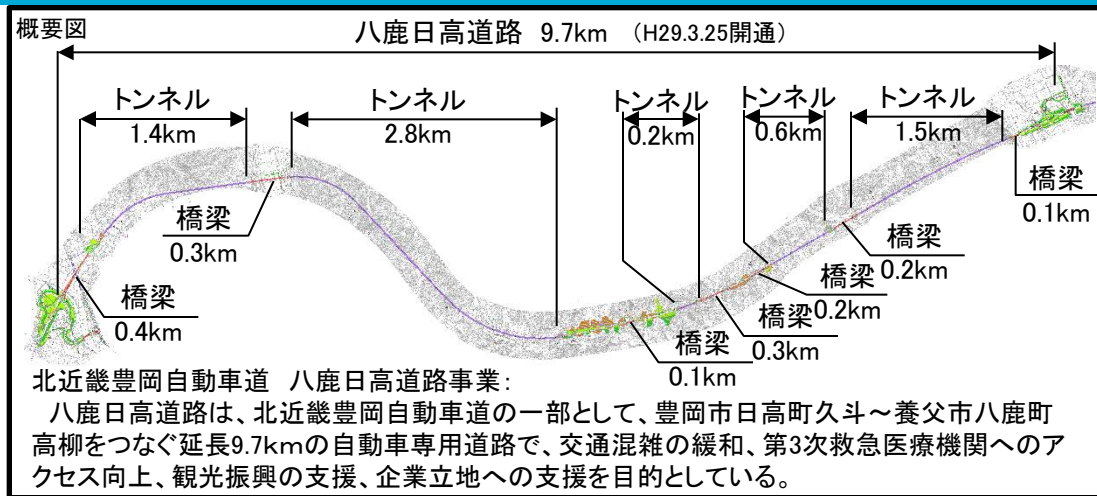
- ・トンネル構造を採用することにより、長大な法面の出現や大規模な地形改変を回避する。【概要図】
- ・山地及び丘陵部の橋梁については、山々に囲まれたのどかな里山景観を尊重する。【Ⅰ】
- ・橋梁形式の比較を行い、連結コンポ橋を採用。車両走行による振動騒音が少なく、コンクリート橋のため、低周波音が発生する可能性が小さい。また、上下部工ともにコンクリートであり、材料質感が統一されるため景観に優れる。【Ⅰ】

② 細部設計、材料等の選定の考え方

- ・トンネルについては、坑門の形式比較を行い、構造物による重量感及び圧迫感を軽減する形式を採用する。また、表面のテクスチャを行い、柔らかな印象を与えるよう工夫する。【Ⅱ】
- ・主桁の色彩については、詳細設計を行う時点において検討を行い、周辺景観と調和を図るよう配慮し、耐候性鋼材(さび安定化处理)を用いることを基本とする。【Ⅲ】

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

- ・切土盛土のバランスをとることでコスト縮減を図りつつ、法面の縮小化に努める。【Ⅳ】

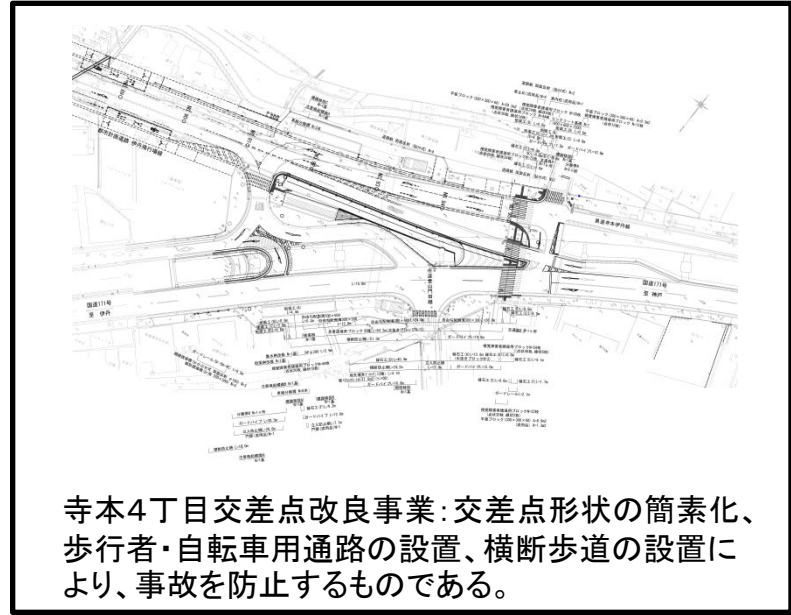


● 景観形成の目標像

周辺の市街地景観と統一感を図った交差点改良

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵について、既設構造物及び周辺の地域景観に配慮し、景観配慮型防護柵のマスタープランにある色彩(ダークブラウン)を用いる。



(事業前)

(事業後)



● 景観形成の目標像

防災面に配慮しつつ

山間部の景観と調和した道路空間の形成

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

法面緑化を行うことにより自然景観と調和させ、利用者にとっても圧迫感の少ない形状とする。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺の自然景観との調和に配慮し、法面のラウンディング処理を行う。

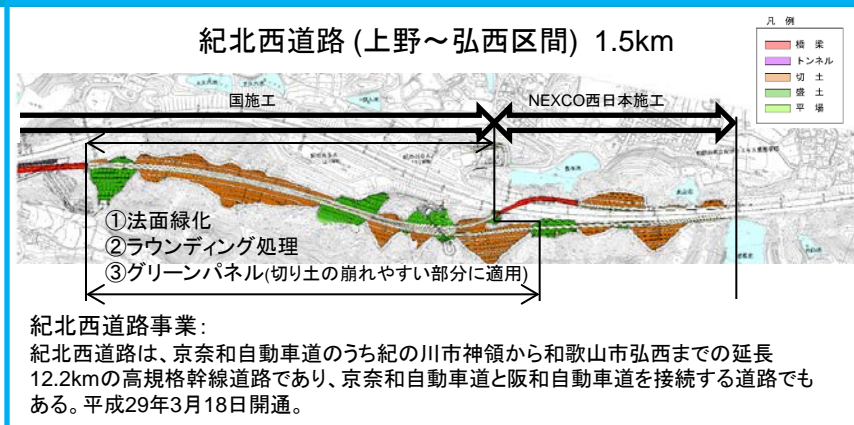
③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

日当たりや法面の規模、防災機能の確保を踏まえ最も安価な工法を採用することでコストを抑える。

(グリーンパネル工法を採用)

(事業後)

(事業前)



●景観形成の目標像

天王山、男山などの山なみ景観を活かし、三川合流部の歴史と自然を感じられる水辺景観を楽しめる拠点施設整備

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

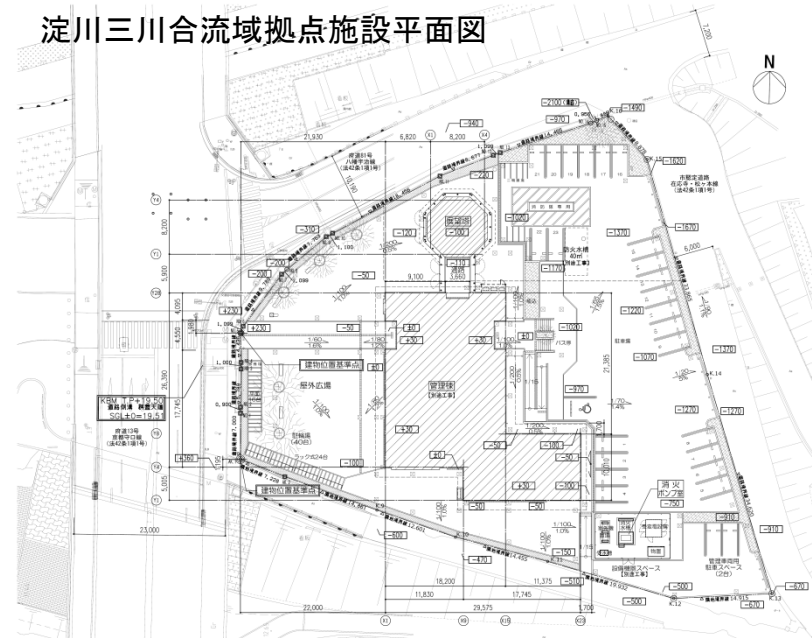
展望塔は、桜並木を含む水辺景観を楽しむことができ、かつ周辺の景観を考慮する高さとする

②細部設計、材料等の選定の考え方

周囲の自然環境に配慮、歴史を感じることでできるものとし、八幡市八角堂や御幸橋親柱から展望塔の八角形を採用

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

管理棟を木造平屋建とし、京都らしい和の木造建築の伝統を継承するむくりの瓦屋根と切妻を採用



事業前



事業後



● 景観形成の目標像

歴史・文化資産と周辺環境を一体的に保全活用した修景整備や地形変化の活用と樹林修景による多彩な景観を創出し、日本人の「こころのふるさとの心象風景」となる景観形成をめざす。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

公園空間やその周辺と一体となって明日香村の歴史的風土を保全し、地域の模範となるよう、地域景観の骨格をなす樹林地景観の形成、地形的な連続性やスカイラインの保全等を図る。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

地形特性を生かした施設配置、地形と樹林が創り出すスカイラインにおさまる施設ボリューム等に配慮した施設デザインとする。

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

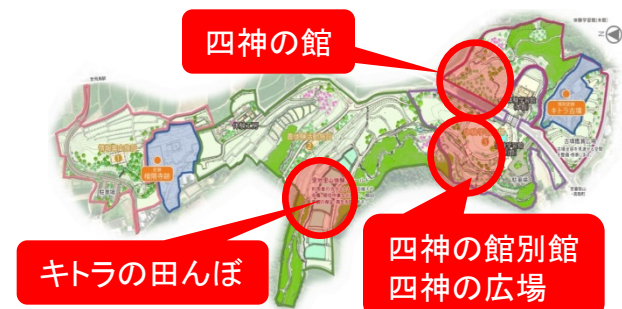
従来技術より耐久性に優れたストーンネット工法を採用し、自然石を用いて法面等の覆土を行うことで、コスト縮減と自然景観との調和を両立させる。

(事業前)

(事業後)



事業箇所(平面図)



国営飛鳥歴史公園の5番目の地区として平成13年に閣議決定された箇所(面積:13.8ha)

①



②



③

